

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年9月22日 (2011.9.22)

【公表番号】特表2010-535790(P2010-535790A)

【公表日】平成22年11月25日 (2010.11.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-047

【出願番号】特願2010-520238(P2010-520238)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/495 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/343 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/22 (2006.01)

A 6 1 P 15/08 (2006.01)

A 6 1 P 15/10 (2006.01)

A 6 1 P 25/20 (2006.01)

A 6 1 P 1/08 (2006.01)

A 6 1 P 25/30 (2006.01)

C 0 7 D 295/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/495

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/343

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 15/08

A 6 1 P 15/10

A 6 1 P 25/20

A 6 1 P 1/08

A 6 1 P 25/30

C 0 7 D 295/12 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月1日 (2011.8.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

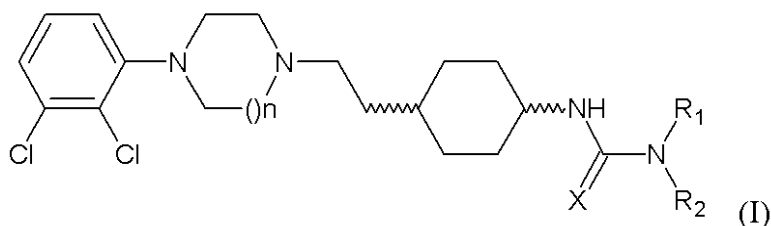
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤および式 (I) の化合物：

【化 1】



[ 式中、

R<sub>1</sub> および R<sub>2</sub> は、それぞれ独立して、水素、アルキル、アルケニル、アリール、シクロアルキルもしくはアロイルであるか、または R<sub>1</sub> および R<sub>2</sub> は、隣接する窒素原子と共に、複素環式環を形成し；

X は O または S であり；

n は 1 または 2 である ]

またはその薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物、および医薬担体を含む、中枢神経系の障害を処置するための医薬組成物。

【請求項 2】

式 (I) の化合物がトランス-4-{2-[4-(2,3-ジクロロフェニル)-ピペラジン-1-イル]-エチル}-N,N-ジメチルカルバモイル-シクロヘキシルアミンまたは薬学的に許容できるその塩である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

式 (I) の化合物がトランス-4-{2-[4-(2,3-ジクロロフェニル)-ピペラジン-1-イル]-エチル}-N,N-ジメチルカルバモイル-シクロヘキシルアミン塩酸塩である、請求項 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤がシタロプラム、エスシタロプラム、フルオキセチン、フルボキサミン、パロキセチン、セルトラリンまたはそれらの薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物から選択される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤がエスシタロプラムまたは薬学的に許容できるその塩である、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤がシュウ酸エスシタロプラムである、請求項 5 に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤が臭化水素酸エスシタロプラムである、請求項 5 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤がエスシタロプラムまたは薬学的に許容できるその塩である、請求項 3 に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤がシュウ酸エスシタロプラムである、請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤が臭化水素酸エスシタロプラムである、請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

障害が気分障害である、請求項 1 から 10 のいずれか 1 つに記載の医薬組成物。

【請求項 12】

気分障害が大うつ病性障害である、請求項11に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

障害が処置抵抗性大うつ病性障害である、請求項1から10のいずれか1つに記載の医薬組成物。

【請求項 14】

障害が双極性うつ病である、請求項1から10のいずれか1つに記載の医薬組成物。

【請求項 15】

障害が統合失調症である、請求項1から10のいずれか1つに記載の医薬組成物。

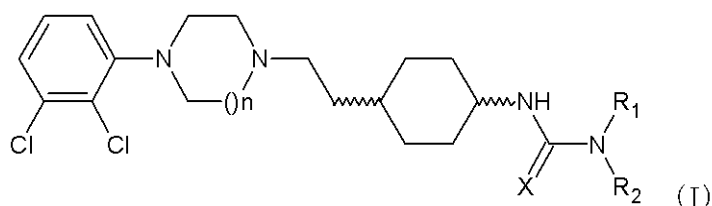
【請求項 16】

請求項1に記載の式(1)の化合物またはその薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物を、該選択的セロトニン再取り込み阻害剤より前、後、または同時に投与することを特徴とする、請求項1から15に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

有効量の式(1)の化合物：

【化 2】



[ 式中、

$R_1$ および $R_2$ は、それぞれ独立して、水素、アルキル、アルケニル、アリール、シクロアルキルもしくはアロイルであるか、または $R_1$ および $R_2$ は、隣接する窒素原子と共に、複素環式環を形成し；

XはOまたはSであり；

nは1または2である]

および/またはその幾何異性体および/または立体異性体および/またはジアステレオマーおよび/または塩および/または水和物および/または溶媒和物および/または多形体、ならびに医薬担体を含む、うつ病を処置するための医薬組成物。

【請求項 18】

式(1)の化合物がトランス-4-{2-[4-(2,3-ジクロロフェニル)-ピペラジン-1-イル]-エチル}-N,N-ジメチルカルバモイル-シクロヘキシルアミンまたは薬学的に許容できるその塩である、請求項17に記載の医薬組成物。

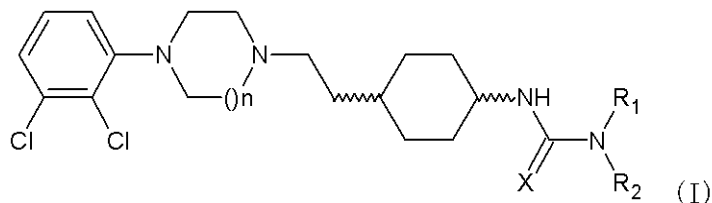
【請求項 19】

式(1)の化合物がトランス-4-{2-[4-(2,3-ジクロロフェニル)-ピペラジン-1-イル]-エチル}-N,N-ジメチルカルバモイル-シクロヘキシルアミン塩酸塩である、請求項18に記載の医薬組成物。

【請求項 20】

うつ病を処置するための医薬の製造における、式(1)の化合物：

【化 3】



[ 式中、

$R_1$ および $R_2$ は、それぞれ独立して、水素、アルキル、アルケニル、アリール、シクロアルキルもしくはアロイルであるか、または $R_1$ および $R_2$ は、隣接する窒素原子と共に、複素環式環を形成し；

XはOまたはSであり；

nは1または2である ]

および/またはその幾何異性体および/または立体異性体および/またはジアステレオマー  
および/または塩および/または水和物および/または溶媒和物および/または多形体の、治療有効量での使用。